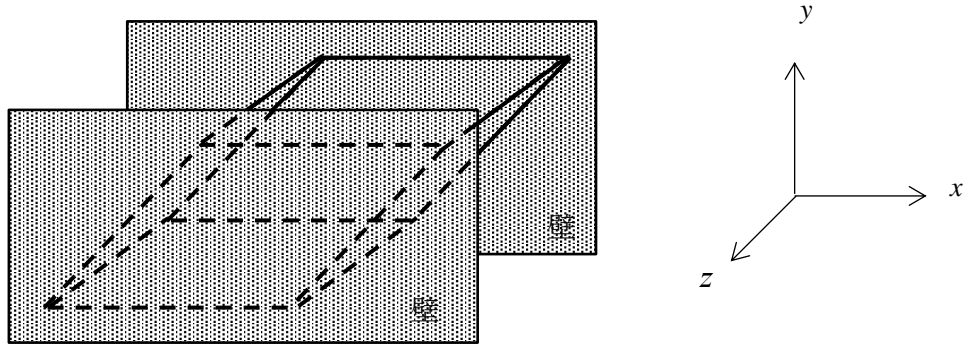
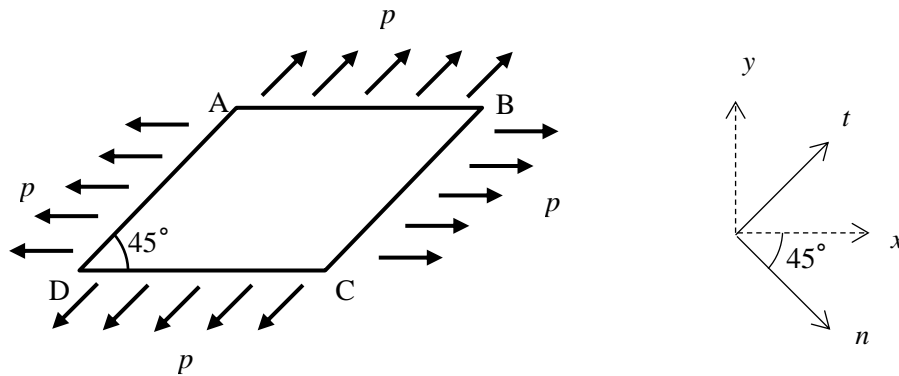


材料の力学 1 Step1 第 5 回演習問題 (2018/5/22 実施)

- [1] 図 1 に示すように、 z 方向が壁で固定され、 $p=8\sqrt{2}$ [MPa]の応力ベクトルが x 方向および t 方向に一樣に作用している弾性体を考える。以下の設問に答えよ。ただし、ポアソン比 ν は $\nu=0.3$ とする。必要であれば $\sqrt{2}=1.41$ を用いて、**有効数字 3 桁** で解答せよ。



(a) 3 次的に見た様子(見やすさのため応力ベクトルは省略してある)



(b) z 方向から 2 次的に見た様子

Fig. 1 両端を壁で固定された弾性体

- (1) 図 1(b)より、 x - y 座標系からみた辺 AB の垂直応力 σ_y 、せん断応力 τ_{xy} と、 n - t 座標系からみた辺 BC の垂直応力 σ_n 、せん断応力 τ_{nt} を求めよ。
- (2) 応力の座標変換を行うことで 応力 σ_x を求めよ。

座標変換の式
$$\sigma_n = \sigma_x \cos^2 \theta + \sigma_y \sin^2 \theta + 2\tau_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

- (3) x - y 座標における応力テンソルを求め、それをもとにモールの応力円を描きその中心と半径を求めよ。
- (4) x - y - z 座標系における主応力 ($\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3$) を求めよ。また、それをもとに最大せん断応力 τ_{max} を求めよ。ただし、図 1 の弾性体は平面ひずみ状態であり、 $\sigma_z = \nu(\sigma_x + \sigma_y)$ であることに注意せよ。

(1) 図 1(b)より, x - y 座標系からみた辺 AB の垂直応力 σ_y , せん断応力 τ_{xy} と, n - t 座標系からみた辺 BC の垂直応力 σ_n , せん断応力 τ_{nt} を求めよ.

まず AB 面に作用する応力ベクトル p を図 1.1 のように分解する. $p = 8\sqrt{2}$ より, 垂直応力 σ_y , せん断応力 τ_{xy} は以下のように求まる.

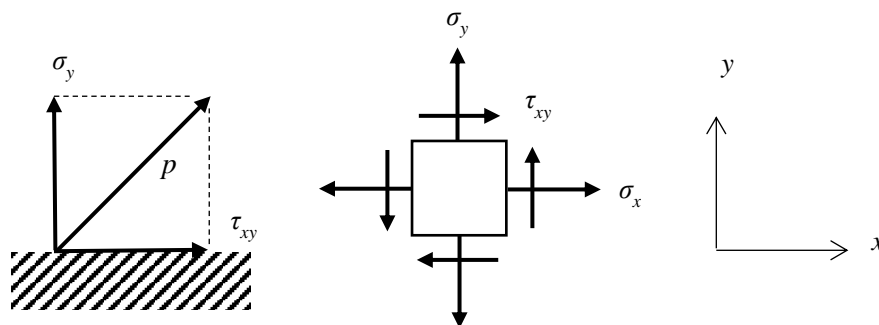


Fig.1.1 AB 面の応力ベクトル

$$\begin{cases} \sigma_y = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \\ \tau_{xy} = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \end{cases} \quad [\text{MPa}] \quad (2.1)$$

x - y 座標系から時計回りに 45° 回転した座標系を n - t 座標系とすると, 応力ベクトル p は図 1.2 のように分解できるよって垂直応力 σ_n , せん断応力 τ_{nt} は以下のように求まる.

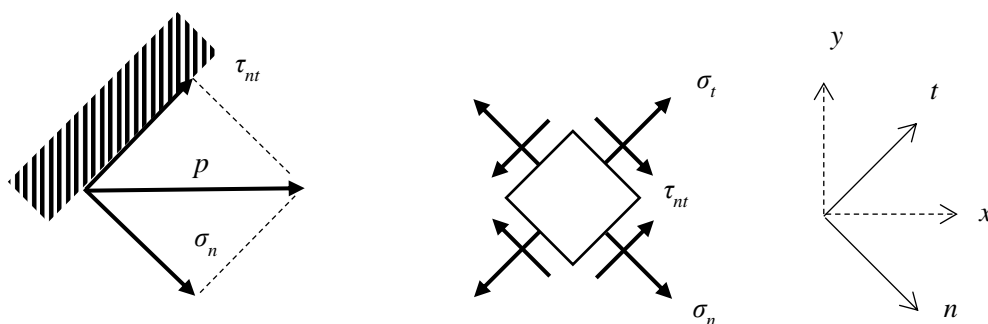


Fig. 1.2 BC 面の応力ベクトル

$$\begin{cases} \sigma_n = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \\ \tau_{nt} = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \end{cases} \quad [\text{MPa}] \quad (2.2)$$

(2) 応力の座標変換を行うことで 応力 σ_x を求めよ.

σ_x は σ_n と τ_{nt} に対して応力の座標変換を行って求める. 座標変換の式は以下のように与えられる.

$$\sigma_n = \sigma_x \cos^2 \theta + \sigma_y \sin^2 \theta + 2\tau_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.3)$$

式(2.3)に式(2.1)および式(2.2)の結果に $\theta = -45^\circ$ を代入すると σ_x が求まる. 従って

$$\sigma_x = 24 \quad [\text{MPa}] \quad (2.4)$$

となる.

(3) x - y 座標における応力テンソルを求め, それをもとにモールの応力円を描きその中心と半径を求めよ.

式(2.1)および式(2.3)より x - y 座標系における応力テンソルは以下のようになる.

$$[\sigma] = \begin{bmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 24 & 8 \\ 8 & 8 \end{bmatrix} \quad [\text{MPa}] \quad (2.5)$$

以上よりモールの応力円を図示すると以下のようになる.

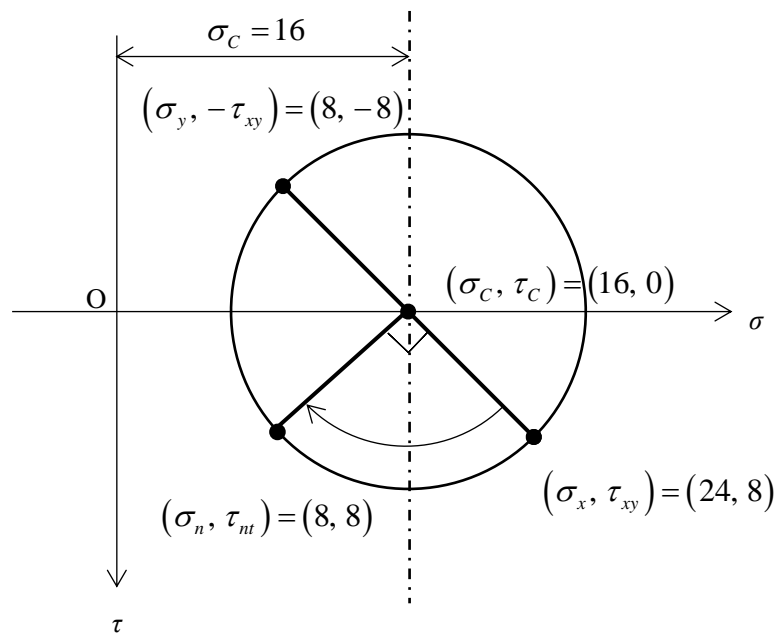


Fig.2.3 モールの応力円

モールの応力円の中心および半径は以下のように求められる.

$$\sigma_c = \frac{1}{2}(\sigma_x + \sigma_y) = \frac{1}{2}(8 + 24) = 16 \text{ [MPa]} \quad (2.6)$$

より

$$(\sigma_c, 0) = (16, 0) \text{ [MPa]} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2}\sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} = \frac{1}{2}\sqrt{(24 - 8)^2 + 4 \times (8)^2} \\ &= 8\sqrt{2} = 11.3 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.8)$$

- (4) x - y - z 座標系における主応力 $(\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3)$ を求めよ。また、それをもとに最大せん断応力 τ_{max} をもとめよ。ただし、図 1 の弾性体は平面ひずみ状態であり、 $\sigma_z = \nu(\sigma_x + \sigma_y)$ であることに注意せよ。

(3)の結果より主応力 σ_1, σ_2 は以下のように求まる。

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_c + r \\ \sigma_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 16 + 8\sqrt{2} \\ 16 - 8\sqrt{2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 27.3 \\ 4.72 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \quad (2.9)$$

本問題では z 方向が壁で固定されており平面ひずみ状態とみなせるため σ_3 は以下のよう
に求まる。

$$\begin{aligned} \sigma_3 &= \nu(\sigma_1 + \sigma_2) \\ &= 0.3 \times (16 + 8\sqrt{2} + 16 - 8\sqrt{2}) = 9.60 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.10)$$

よって

$$(\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3) = (27.3, 4.72, 9.60) \text{ [MPa]} \quad (2.11)$$

以上より $\sigma_1 > \sigma_3 > \sigma_2$ であるので、最大せん断応力 τ_{max} は以下のように求まる。

$$\begin{aligned} \tau_{max} &= \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} = \frac{27.3 - 4.72}{2} \\ &= 11.3 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.12)$$

また、これら主応力を図示すると以下の図 2.4 のようになる。

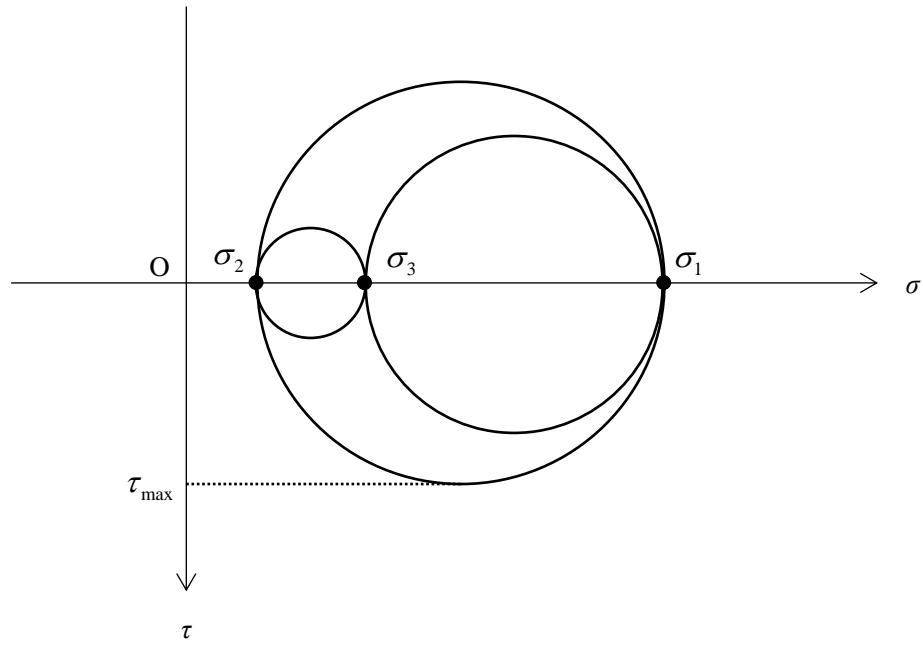


Fig.2.4 モールの応力円

[2] 板厚が十分に薄い弾性体表面のある点での応力状態を求めるため、図 2 に示すような 45°傾けた三軸ひずみゲージを貼り付けた。それぞれのひずみゲージから測定した値は $\varepsilon_x=315\mu$, $\varepsilon_y=115\mu$, $\varepsilon_{45^\circ}=115\mu$ ($\mu=1.0\times 10^{-6}$) であった。この弾性体の縦弾性定数 $E=91$ GPa, $\nu=0.3$ とし以下の設問に答えよ。ただし、回転方向は反時計回りを正とし、必要であれば $\sqrt{2}=1.41$ を用いて、**有効数字3桁**で解答せよ。

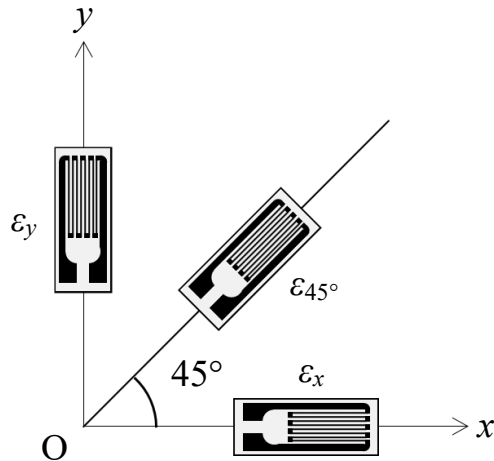


Fig.2 三軸ひずみゲージ模式図

- (1) (i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ γ_{xy} を求め、 x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ を求めよ。
 (ii) 求めたひずみテンソルより、モールのひずみ円を描き、その中心と半径を示せ。
- (2) 前問で描いたモールのひずみ円より、主ひずみ ($\varepsilon_1, \varepsilon_2$) および主ひずみ方向 (θ_1, θ_2) を求めよ。ただし、 $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$ とする。
- (3) (i) 応力-ひずみの関係式*より、 x - y 座標系における応力テンソル $[\sigma_{ij}]$ を求めよ。
 (ii) 求めた応力テンソルより、モールの応力円を描き、その中心と半径を示せ。
- (4) 前問で描いたモールの応力円より、主応力 (σ_1, σ_2) および主応力方向 (θ_1, θ_2) を求め、(2) で求めた主ひずみ方向との関係性を述べよ。

※ひずみの座標変換式

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

※応力-ひずみの関係式

$$\sigma_x = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_x + \nu\varepsilon_y), \quad \sigma_y = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_y + \nu\varepsilon_x), \quad \tau_{xy} = \frac{E}{2(1+\nu)} \gamma_{xy}$$

[[2]

(1) (i) ひずみの座標変換式は次式で表される.

$$\varepsilon_{\theta} = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.1)$$

式(2.1)に $\theta=45^\circ$ を代入すると次式が得られる.

$$\varepsilon_{45^\circ} = \varepsilon_x \cos^2(45^\circ) + \varepsilon_y \sin^2(45^\circ) + \gamma_{xy} \sin(45^\circ) \cos(45^\circ) \quad (2.2)$$

上式に各ひずみゲージで計測した値 $\varepsilon_x=315\mu$, $\varepsilon_y=115\mu$, $\varepsilon_{45^\circ}=115\mu$ を代入し, γ_{xy} について整理することでせん断ひずみを算出できる.

$$\begin{aligned} \gamma_{xy} &= 2\varepsilon_{45^\circ} - (\varepsilon_x + \varepsilon_y) \\ &= 2 \times 115\mu - (315 + 115)\mu \\ &= -200\mu \end{aligned} \quad (2.3)$$

これより x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ は次のようになる.

$$[\varepsilon_{ij}] = \begin{pmatrix} \varepsilon_x & \gamma_{xy}/2 \\ \gamma_{xy}/2 & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 315\mu & -100\mu \\ -100\mu & 115\mu \end{pmatrix} \quad (2.4)$$

(ii) (i)より求めた $(\varepsilon_x, \gamma_{xy}/2) = (315\mu, -100\mu)$, $(\varepsilon_y, -\gamma_{xy}/2) = (115\mu, 100\mu)$ をプロットしてモールのひずみ円を描くと図 2.1 のようになる.

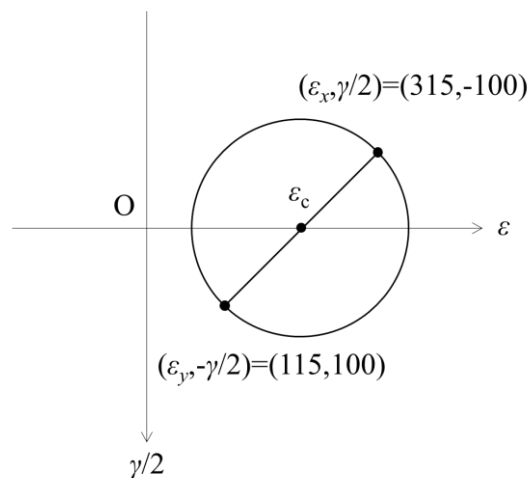


Fig.2.1 モールのひずみ円

中心座標 $(\varepsilon_c, 0)$ は以下のように求められる.

$$\begin{aligned} (\varepsilon_c, 0) &= \left(\frac{\varepsilon_x + \varepsilon_y}{2}, 0 \right) \\ &= \left(\frac{315\mu + 115\mu}{2}, 0 \right) = (215\mu, 0) \end{aligned} \quad (2.5)$$

また半径 r は以下の式より求められる.

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\varepsilon_x - \varepsilon_y)^2 + 4 \left(\frac{\gamma_{xy}}{2} \right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(315\mu - 115\mu)^2 + 4(100\mu)^2} = 141\mu \end{aligned} \quad (2.6)$$

(2) 主ひずみ $(\varepsilon_1, \varepsilon_2)$ および主ひずみ方向 (θ_1, θ_2) はモールのひずみ円上において以下の図 2.2 のように表される.

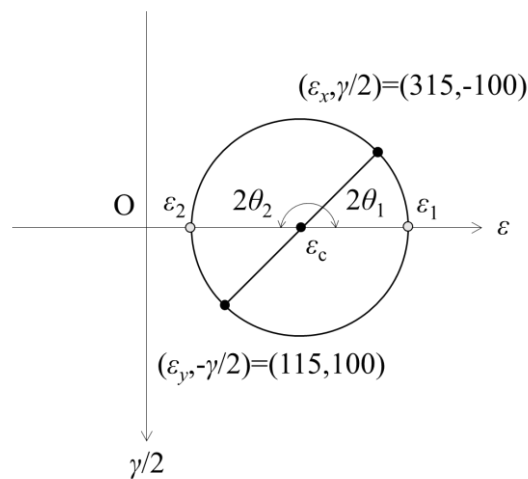


Fig.2.2 主ひずみおよび主ひずみ方向

上図より主ひずみおよび主ひずみ方向は以下のように求まる.

$$\begin{pmatrix} \varepsilon_1 \\ \varepsilon_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \varepsilon_c + r \\ \varepsilon_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 215\mu + 141\mu \\ 215\mu - 141\mu \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 356\mu \\ 74\mu \end{pmatrix} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned}
\theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{\gamma_{xy}}{\varepsilon_x - \varepsilon_y} \right| \\
&= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{200\mu}{315\mu - 115\mu} \right| = -22.5 \text{ [deg]}
\end{aligned} \tag{2.8}$$

主ひずみ方向は直交するので、 $\theta_2 = \theta_1 + 90 = 67.5 \text{ deg}$ と得られ、主ひずみ方向は、

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} \text{ [deg]} \tag{2.9}$$

(3) (i) 応力—ひずみの関係式*より、 x - y 座標系における各応力は以下のように求まる。

$$\begin{aligned}
\sigma_x &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_x + \nu\varepsilon_y) \\
&= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times (315 + 0.3 \times 115) \times 10^{-6} = 35.0 \text{ [MPa]}
\end{aligned} \tag{2.10}$$

$$\begin{aligned}
\sigma_y &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_y + \nu\varepsilon_x) \\
&= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times (115 + 0.3 \times 315) \times 10^{-6} = 21.0 \text{ [MPa]}
\end{aligned} \tag{2.11}$$

$$\begin{aligned}
\tau_{xy} &= \frac{E}{2(1+\nu)} \gamma_{xy} \\
&= \frac{91 \times 10^9}{2 \times (1+0.3)} \times (-200) \times 10^{-6} = -7.00 \text{ [MPa]}
\end{aligned} \tag{2.12}$$

したがって、応力テンソルは以下のようになる。

$$[\sigma_{ij}] = \begin{pmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 35.0 & -7.00 \\ -7.00 & 21.0 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \tag{2.13}$$

(ii) (i)より求めた $(\sigma_x, \tau_{xy}) = (35.0, -7.00)$, $(\sigma_y, -\tau_{xy}) = (21.0, 7.00)$ をプロットしてモールの応力円を描くと図 2.3 のようになる

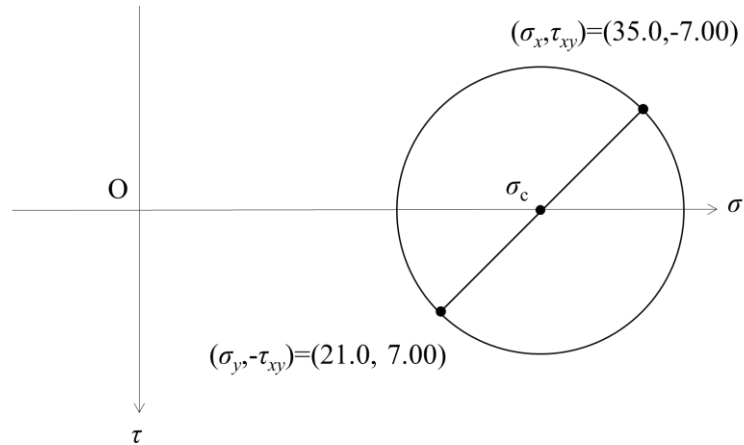


Fig.2.3 モールの応力円

中心座標 $(\sigma_c, 0)$ は以下のように求められる。

$$\begin{aligned} (\sigma_c, 0) &= \left(\frac{\sigma_x + \sigma_y}{2}, 0 \right) \\ &= \left(\frac{35.0 + 21.0}{2}, 0 \right) = (28.0, 0) \quad [\text{MPa}] \end{aligned} \quad (2.14)$$

また半径 r は以下の式より求められる。

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(35.0 - 21.0)^2 + 4(-7.00)^2} = 9.87 \quad [\text{MPa}] \end{aligned} \quad (2.15)$$

(4) 主応力(σ_1, σ_2)および主応力方向(θ_1, θ_2)はモールの応力円上において以下の図 2.4 のように表される.

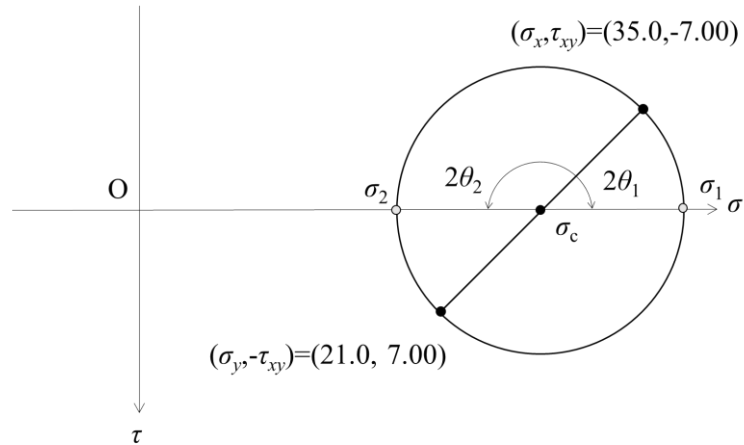


Fig.2.4 主応力および主応力方向

上図より主応力および主応力方向は以下のように求まる.

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_c + r \\ \sigma_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 28.0 + 9.87 \\ 28.0 - 9.87 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 37.9 \\ 18.1 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \quad (2.16)$$

$$\begin{aligned} \theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{2\tau_{xy}}{\sigma_x - \sigma_y} \right| \\ &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{2 \times 7.00}{35.0 - 21.0} \right| = -22.5 \text{ [deg]} \end{aligned} \quad (2.17)$$

主応力方向は直交するので, $\theta_2 = \theta_1 + 90 = 67.5 \text{ deg}$ と得られ, 主応力方向は,

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} \text{ [deg]} \quad (2.18)$$

となる. 上式および式(2.9)より, 主応力方向と主ひずみ方向は一致することがわかる.